

国際規格の動向—国際会議に出席して—

8月～11月の国際会議は依然として Web 開催が多かったが、対面+Web のハイブリッド開催も行われた。当社に関する審議について報告する。

ISO 105-B04（キセノン耐光性試験）Ad hoc Web 会議

ISO/TC38(繊維)/SC1(染色堅ろう度) WG1(耐光)

開催日：2022 年 8 月 25 日（出席者：喜多英雄）

参加国：アメリカ・イギリス・ドイツ・日本 / 4ヶ国 7 名

- (1) WD のコメントについて議論した。分光分布のタイプ 1 は ASTM D7869 のデイルイト条件、タイプ 2 は SAE J2527 のデイルイト条件と同じであることが確認された。推奨の放射照度を Note に追加する案を作成し、CD Consultation へ進める。

ISO/TC61（プラスチック）ISC6（耐候性）Web 会議

開催日：2022 年 8 月 29 日、9 月 2 日、9 月 12 日

（出席者：喜多英雄）

参加国：アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・チェコ・インド・中国・韓国・日本 / 9ヶ国 25 名

【WG2(光暴露)】

- (1) ISO 4892-1(通則)

WD のコメントについて議論した。新たに構造が異なるプラスチックパネルセンサーの提案があったが、従来からある規定のままで対応できることが確認された。修正案を作成し、CD に進める。

- (2) ISO 4892-3(紫外線蛍光灯試験)

ドイツより WD のコメントと Observation の説明があり、恒温槽タイプが追加されることとなった。修正案を作成し、CD へ進める。

- (3) ISO 5733(LED による耐光性試験) PL: 喜多英雄

NP コメントについて議論した。改正案を WG 内で議論し、その後 IS または TS の投票をする。

【WG3(諸暴露)】

- (1) 新規提案

韓国より、殺菌用の UVC 照射と機械的ストレス(クリープ)試験が新規提案された。資料を回送し、NP 投票を行う。

ISO/TC107（金属及び無機質皮膜）Web 会議

開催日：2022 年 9 月 15 日（出席者：須賀茂雄）

参加国：イギリス・ドイツ・フランス・フィンランド・中国・韓国・日本 / 7ヶ国 60 名

- (1) SC7(腐食試験)は議長を伊藤勲氏、国際幹事を須賀茂雄が務めており、須賀より SC7 の活動状況について報告した。

IEC/TC104（環境条件、分類及び試験方法）ドイツ・ヴェルツブルク+ Web 会議

【MT16】

開催日：2022 年 9 月 20 日、9 月 21 日

参加国：アメリカ・イギリス・ドイツ・イタリア・スウェーデン・中国・日本 / 7ヶ国 12 名

- (1) 中国より、制御された相対湿度と塩濃度による塩水噴霧試験の説明があった。今後 MT18 で NP 提案を行う。
- (2) 須賀が ISO/TC156 及び ISO/TC35/SC9 で説明した Components と Composites の腐食試験のプレゼンテーションが MT16 メンバーに回送された。

【MT18】

開催日：2022 年 9 月 21 日

参加国：アメリカ・イギリス・ドイツ・スイス・スウェーデン・
中国・日本 / 7 ヶ国 12 名

- (1) アメリカより UVC 殺菌灯による照射試験方法について、
NP 投票中との説明があった。

ISO 4767（プラズマ光源試験） Ad hoc Web 会議

ISO/TC61(プラスチック)/SC6(耐候性)WG2(光暴露)

開催日：2022 年 10 月 5 日（出席者：喜多英雄）

参加国：アメリカ・イギリス・ドイツ・韓国・日本
/ 5 ヶ国 13 名

- (1) 分光放射照度分布やフィルターに関して議論した。改訂
文書で WG Consultation に進める。

ISO/TC45（ゴム及びゴム製品） Web 会議

【SC2(試験及び分析)WG3(物理試験)】

開催日：2022 年 10 月 13 日（出席者：金原英司）

参加国：アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・オランダ・チェコ・
スウェーデン・インド・タイ・中国・日本
/ 11 ヶ国 33 名

- (1) ISO/DIS 188(熱老化試験)
横風式熱老化試験機の風速や、試験名称及びオープン
の名称の統一に関して議論した。
- (2) ISO 1431-1(オゾン劣化試験)
2022 年 6 月に第 6 版として改正発行(詳細は P.4 参照)
されたが、試験精度向上のため、試験片の端面保護した
試験方法の追加が日本より新規提案された。DIS からスタ
ートする。

【SC2(試験及び分析)/Plenary】

開催日：2022 年 11 月 2 日（出席者：金原英司）

参加国：アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・オランダ・
スウェーデン・フィンランド・インド・インドネシア・タイ・
マレーシア・ベトナム・中国・日本 / 14 ヶ国 69 名

- (1) ISO/DIS 188(熱老化試験)を FDIS に進めることが報告
された。
- (2) ISO 1431-1(オゾン劣化試験)が DIS からスタートするこ
とが報告された。
- (3) ISO 1431-3(オゾン濃度測定)は定期見直しで確認され
た。

ISO/TC42（写真/画像）WG5（写 真/画像の保存性）Web 会議

開催日：2022 年 10 月 17 日（出席者：喜多英雄）

参加国：アメリカ・イギリス・ドイツ・ベルギー・オランダ・スイス
・日本 / 7 ヶ国 28 名

- (1) ISO 18937 シリーズ(イメージング材料-現像済み写真印
画紙-屋内光の安定性の測定方法)
- ①Part 1(通則)、Part 2(キセノン)
DIS コメントに対して議論した。修正した文書を回送する。
- ②Part 3(LED):PL 須賀茂雄
CD2 案のコメントに対して議論した。PL グループで
Interlaboratory comparison の案をまとめ、CD2 を開始す
る。

＜ISO 規格発行までの手順＞

PWI	Preliminary Work Item (Project)	予備段階
NP	New Proposal for a work item	提案段階
AWI	Approved Work Item	提案承認段階
WD	Working Draft	作成段階
CD	Committee Draft	委員会段階
DIS*	Draft International Standard	照会段階
FDIS	Final Draft International Standard	承認段階
IS	International Standard	発行段階

※IEC では CDV : Committee Draft for Vote

PL	Project Leader	プロジェクトリーダー
IS	International Standard	国際規格
TS	Technical Specification	技術報告書

規格ニュース

新規に発行された ISO 規格をご紹介します。

ISO 7784-3: 2022

Paints and varnishes — Determination of resistance to abrasion — Part 3: Method with abrasive-paper covered wheel and linearly reciprocating test specimen

塗膜の摩耗試験の内、試験片往復法(スガ摩耗試験)を規定している規格で、須賀が共同 PL を務めた。今回 Precision data の内容がより詳細に記載された。

ISO 9227: 2022

Corrosion tests in artificial atmospheres — Salt spray tests

最も一般的な塩水噴霧試験として広く使用されている規格。第 5 版となる今回の改正で、試験片を設置する範囲が規定され、それに伴い試験前と試験中の確認方法が追加、また試験装置の検証に使用される鋼板の種類、試験装置の再利用における規定などが追加された。《詳細は次号で解説予定》

JIS C 60068-2-5: 2022

環境試験方法—電気・電子—第 2-5 部: 地上レベルでの疑似日射並びに日射試験及び耐候性試験の指針(試験記号:S)

2018 年に第 3 版として発行された IEC 60068-2-5 を技術的内容及び構成を変更することなく作成した JIS 規格で、太陽照射環境下における電子機器・部品の耐候性試験の方法を定めている。

講演

沖エンジニアリング株式会社様 2022 OEG セミナー

日時: 2022 年 11 月 11 日

場所: 御茶ノ水ソラシティ・カンファレンスセンター

講演者: 代表取締役社長 須賀茂雄

演題: 腐食促進試験の国際標準化と試験機の開発

講演内容: 腐食促進試験はさまざまな産業分野毎に ISO、IEC、ASTM 規格等に規定されている。各産業分野でそれぞれのエキスパートにより審議されるため、同じ試験方法でも分野毎での解釈の違いや審議合意により、結果的に異なった規定になる場合がある。このためスガ試験機では、各産業分野の国際標準化審議に横断的に参画し、共通の試験方法について整合するように努めている。最近要求の増えている IEC の塩水噴霧試験方法、複合サイクル試験方法、ガス腐食試験方法等を例に、その内容と今後の課題及び規格に沿った試験機開発の動向について紹介した。

